



第拾卷第三號

素性法師

○ 春立てば花とや見らん白雪のかゝれる枝に鶯の鳴く

源 當 純

○ 谷風にとくる氷のひま毎に打出づる浪や春の初花

○ 大江千里

○ 鶯の谷より出づる聲なくば春くる事を誰か知らまし

○ 源宗干朝臣

○ ときはなる松の緑も春くれば今一しほの色まさりけり

○ 伊 勢

○ 春霞立つを見捨てゝ行く雁は花なき里に住やならへる

○ 紀のありとも

○ 櫻色に衣は深く染てきん花の散なん後の形見に